

# 会報・会誌委員会

## 一 発行のねらい

上小教育機関誌としての「会報・会誌」の編集、発行を通して、上小教育会の決定事項や事業内容を会員に伝達すると共に、会員相互の理解や研鑽の場を提供する。

## 二 編集方針

### 1 会報「上小教育会報」259号、260号の発行

- (1) 上小教育会の決定事項、事業の内容や会暦等を会員に報告する。
- (2) 学習指導委員会・調査研究等委員会の計画と研究の歩みを掲載する。
- (3) 教育現場における今日的課題やあり方等の会員の意見を掲載する。
- (4) 会等を考慮して、会員に依頼した執筆原稿を掲載する。
- (5) 前会員、郡外の先生方からの寄稿も掲載する。

### 2 会誌「上小教育」64号の発行

- (1) 論説、研究、教育実践、随想、同好会の歩み、支会だより、会暦、視察報告等を掲載。
- (2) 支会、学校等を考慮し、執筆原稿を集め掲載する。

※会報・会誌共に、教育の専門職に携わる教職員の機関誌にふさわしい、質の高いものにする。

## 三 発行と発行内容

### 1 会報「上小教育会報」259号 4ページ

○巻頭言 新しい時代の学び方 滝沢克子 会長（以下敬称略）

○退職者だより

- ・退職雑感 小山喜博
- ・学校はかけがえのない場所 荻原敏行

○表彰された先生方

○「新会員の抱負」「あの目・この目」「教育の広場」等を掲載

○上小教育会役員・年間計画

○同好会

### 2 会報「上小教育会報」260号 8ページ

○巻頭言 困難な時こそ自己研鑽を 福澤 行雄 副会長

○「あの目この目」「教室の窓」等を掲載

○学習指導研究委員会・調査研究等委員会 研究の歩み

### 3 会誌「上小教育」64号 約160ページ

- 巻頭言 熱き思いを未来につなぐ 滝沢克子 会長
- 郡外通信 望月秀明 北沢 敦 丸山真弘 出口哲朗
- 以上の他に「論説」「研究」「教育実践」「随想」「同好会の歩み」「寸感」「支会だより」「視察報告」「会暦」「石井鶴三美術資料室だより」等を掲載した。

## 四 反省とまとめ

- 1 今年度は、各支会1名ずつの8名で活動をおこなった。原稿依頼と原稿集めを分担しておこなうので、各支会1名の委員は必要。
- 2 原稿集めはメールで行い、確実に処理することができた。会報・会誌はそれぞれ、発行号ごとに、2～3人でチーム編成し、企画・収集・校正を行い、また、委員全員で原稿依頼・割り付けをした。分担をはっきりさせることによって、短時間で会報・会誌を制作することができた。
- 3 副委員長が会合通知・委員長補佐、写真係が写真編集、会計係が会計・郵送を行い、役員として中心になって進めた。常に役員と世話係と委員長が相談を重ね、作業が確実に進んだ。
- 4 委員会の開催回数が多く委員の負担となっているので、会報の発行回数を3回から2回に減らした。その結果昨年度より3回委員会の開催回数を減らすことができたが、一回あたりの作業量が増えてしまったので、来年度は作業が負担なくこなせるように計画的に委員会を行っていきたい。委員会の時間を短時間で済ませるために、委員長が事前準備をしておく必要もある。
- 5 菅平夏季大学の講演会については、今年度は行われなかったが、昨年度よりの引継ぎで「記録的な意味であるならば、講師名及び演題を残すことで省略し、浮いてくる大きな金額を教育会会員に還元できるほかの事業に充てる方向を検討したい。」となっている。来年度に確実に引き継ぎたい。
- 6 教育会総会、夏季大学の時には、記録係として活動をおこなってきた。
- 7 会報は年2回（7月・12月）発行し、会誌は年1回（3月発行予定）であった。教育会役員・世話係・代議員・執筆会員・教育会館職員・信教印刷の方々の協力により、充実した機関誌となった。心から感謝申し上げます。

## 五 委員名簿

推進係	笠原 利幸	(依田窪南部中)
委員長	村山 聖	(清明小)
副委員長	山際 美和	(川西小)
委員	高見澤 梓	(本原小)
	渡邊 美奈子	(北御牧小)
	寺澤 信孝	(豊殿小)
	武田 敦子	(丸子北小)
	大日向 洋介	(武石小)
	小林 愛奈	(中塩田小)